



2021年1月23日（日）19時から、山中比叡平市民センターホールで、梁山泊比叡平の島元氏の講演会が行われました。

二年ほど前に、風の便りに京都の梁山泊という古本屋さんが、私たちの町、比叡平に引っ越して来られるという話を耳にし、私たちは「色めき立ち」ました。早速インターネットで調べてみると、その梁山泊の古本屋さんは、地図で、京都の祇園四条河原町付近にあるのが分かりました。京都の有名な古本屋さんが、比叡平にお店を出すなんて、夢のような話ではないかと思ったのです。昨年度はじめあたりに、比叡平のど真ん中、市民センターの十字路のむかえに立派な梁山泊さんの建物が開業し始めたのです。訪ねてみると、本棚が天井まで設置されて、本がびっしり敷き詰められているではありませんか。すごいと感動しました。

そんなことですから、比叡平に梁山泊さんが開業されたのを知ったときは、なんとか、お近づきになりたいものだと思ったのでした。さらに、この度、梁山泊の店主の島元健作氏に、ご講演をお願いし、快くお引き受け頂いたことは、とても嬉しい事でありました。なぜなら、山中比叡平という天空の住宅地の中で、一番、親しみのこもった、しかも厳粛な、講演会という形式をとって、島元健作氏が、これまで心血を注いでこられ、獲得されてきた、貴重な知識のエキスの一端に、私たちはこの地に居ながらにして、身近に、接近することができたからです。

しかも、「町の中に、古本屋さんと豆腐屋さん和風呂屋さんがあると、その町は文化の香りが高く、しっとりとして、住みやすい、居心地の良い街になる」という昔からの言い伝えがありますが、山中比叡平はそれに到達したというのです。なぜなら山中比叡平には、豆腐屋さんが、あの独特なプーという音を鳴らして豆腐を売りに来ているし、住民はそれ

ぞれ自宅に風呂をもっているし、いよいよ、古本屋さんが比叡平にもできたからです。

週刊誌や新聞等にあふれているベストセラー作品表示は、胡散臭い、と島元氏は主張します。最近では、読まれることよりも、宣伝をして売り上げることばかりが前面に出ている。ベストセラー作品はなるほど販売されるが、ほとんど読まれていない。長く読み継がれる作品は、ベストセラー作品表示の中にはなかなか見つからない。だから古本屋さんにとっては、そういう本に対しては懐疑的になる、というのです。

本の内容、本の装丁等、本当に質の高い本とはどのようなものかについて、色々な角度から話されました。

あっという間に、2時間の熱い講演会は過ぎました。

コロナ感染者が、滋賀県でも増えていて、なかなか大変な時期でしたが、若い男性女性の方々も来られていて、熱心に講演を聴いていました。知的な質の高い講演会等を開催し続けることは、山中比叡平の新しい若い世代の方々にとっても、有益な事であるに違いないと、心を強くしました。

講演会 **梁山泊比叡平** **島元健作氏**

講演題目 「古本屋一日入門講座」

2022年1月23日(日)19時～
山中比叡平市民センター2階ホール

主催：山中比叡平学区まちづくり協議会

大木文雄